

※文字の大きさは Meiryō UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. A-53

部門名：カリキュラム・マネジメント
実践部門

エントリー名：安中市立碓東小学校 長壁敬子
平成 30 年度 第 2 回中堅教員研修

活動名：学校組織・カリマネの工夫 作ろう！めあて・まとめ・振り返り

解決すべき課題：

- 1 (児童の課題) 全国学習状況調査の結果や校内学力テスト・校内学習アンケートの結果分析により、本校児童は知識・技能の活用力や自己表現する力が弱かったため、その学力向上を図る。
- 2 (教職員の課題) 教員の個性・専門性を活かした組織的な運営(例：中学年の課題は、教職経験の浅い若手教員や学年主任 1 年目教員、小学校勤務経験の浅い教員があり、中堅教員のサーバントリーダーシップ及びミドルアップダウンマネジメントと効果的な組織運営が学年経営や児童の学力向上につながると考えた。

目標・方針：

- 1 (活用力・表現力の向上を目指して)
 - 『学習過程スタンダード』を活用した学習指導実践
 - きめ細かな学習指導のために、ユニバーサルデザインの視点を生かした実践
 - 低中高学年別ブロックを核とした、教師の PDCA サイクルの実践
- 2 (若手教員や学年主任 1 年目教員等が含まれる中学年担任組織の実態から)
 - H30 年 10 月「群馬県教育委員会学力向上推進事業・公開授業研究会」に向けた計画作成及び研究実践のための組織マネジメント
 - 学習発表会(学校行事 9 月・2 月)にむけた組織マネジメント

活動内容：

- 1 教職員間で学習指導の基本的方向性を共有するためのマネジメント
〔Plan & Do①〕自ら学ぶ碓東小学習過程スタンダードの実践と学習環境のユニバーサルデザイン化
〔Plan & Do②〕授業研究
- 2 学校に応じた柔軟な組織マネジメント
〔Plan & Do③〕「碓東小創立 60 周年記念」企画マネジメント
〔Plan & Do④〕「6 年生を送る音楽会」企画マネジメント

活動の成果：

- めあて・まとめ・振り返りを教師が意識して指導実践できている。児童がめあての解決のために思考を焦点化して学習に取り組めた。表現力について、学習アンケート結果からも向上がみられた。(右表)
- | | | | | |
|----------|-----|----|----|----|
| 平成30年3月 | 130 | 82 | 56 | 14 |
| 平成30年7月 | 151 | 69 | 54 | 8 |
| 平成30年12月 | 161 | 70 | 47 | 4 |
- 0% 50% 100% (人)
- 学校全体でユニバーサルデザイン化を意識した環境づくりが整いつつある。(今後も工夫した整備を継続)
○学校行事については、組織の効率化と協働(=コラボレーション)から、児童・保護者・地域から好評を得た。

アピールポイント (アイディアや工夫)

- 毎時間の「めあて」「まとめ」「振り返り」を児童が考え、自ら作ることで、課題を認識し学習意欲を高め、学習の定着を図ることができる。
- 中核教員のサーバントリーダーシップで学校全体の協働体制を作り、目的を共有化した学習指導や学校運営ができる。(学級・学年を越えて協働する組織→学校全体の活力を生む、若手教員を活かす。)

1 教職員間で学習指導の基本的方向性を共有するためのマネジメント 〔Plan & Do①〕自ら学ぶ碓東小学習過程スタンダードの実践と学習環境のユニバーサルデザイン化

〈平成30年度 碓東小学校 学力向上計画〉

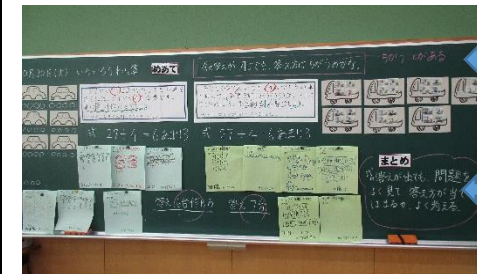
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①教育課程の改善・充実 (授業改善の日常化)												
②指導体制の工夫・改善 (教科指導、個別支援、学習指導、授業改善)												
③教員の指導力の向上 (校内研修の実施、学習指導、授業改善)												
④家庭・地域との連携 (家庭学習の支援、地域連携)												

- めあて→まとめ→ふりかえり・・・学習の流れを統一
見通しを持たせ、主体的な取組を支援
めあて・・・子どもの言葉から(主体性) → 疑問形にする
まとめ・・・「めあて」との整合性をはかる
ふりかえり・・・気づきの確認・新たな疑問・次時への意欲等
- すべての教室に言葉カードの活用 (黒板掲示用)
- 本時の導入で学習の流れを提示(学習の見通しを持たせる)
- 教室の前面、黒板上部にはものを掲示しない。棚はカーテン等を掛けて内部が見えないようにする。(児童の視覚的情報量を整理し、学習に集中しやすくする。)

ポイント

- ・学年間で授業を見合いながら気軽に相談できる環境を作る。
- ・中堅教員が率先してユニバーサルデザインを取り入れ共有する。

〔Plan & Do②〕授業研究



本時の学習の見通しを掲示

本時ごとに児童がめあてを考える

児童が考えためあてに

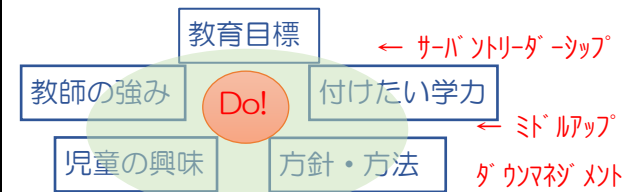
対し、本時のまとめを

児童の言葉で表現する

・視覚化 ・思考の焦点化 ・共有化 → 課題解決の達成感

Check ! & Action

2 課題に応じた軟な組織マネジメント



〔Plan & Do③④〕

◇表現活動の工夫

- 〈方針〉H30 年度は碓東小学校創立 60 周年記念 〈付けたい学力〉自己表現力
- 〈児童の興味〉全国高校野球大会 100 回記念、応援歌、ダンス表現、身近な話題性・流行
- 〈教師の強み〉野球経験のある教員が中学年担任の 75%だったこと、経験者の立場から創造的な企画が期待できること
- 《Do!》「碓東小創立 60 周年記念応援ダンス」(表現活動)企画・実践へのマネジメント

◇音楽発表活動の工夫

- 〈方針〉行事精選による「音楽会」と「6 年生を送る会」の合科的学習活動の取組 〈付けたい学力〉技能の活用・表現力
- 〈児童の興味〉運動会での表現活動の成果、卒業生への感謝のメッセージ、発表会への家庭や地域の期待
- 〈教師の強み〉中学年の担任が全て男性であったこと、音楽科学習指導が初めての担任が 75%だったこと、音楽指導経験者が 1 名いたこと

《Do!》発表会前後 2 ヶ月の教科担当制を柔軟に実施。社会科や理科など教員の専門性を活かした授業担当者の交換を組織的にマネジメントし、きめ細かな学習支援を実現

ポイント

- ・若手教員の強み・専門性を活かしたマネジメントと協働体制を作る。

